

租税教育の事例集（高等学校版）

～租税教育の充実に向けて～



平成 27 年 4 月 発行

（平成 30 年 5 月 一部改訂）

租税教育推進関係省庁等協議会

○はじめに

1 租税教育は、なぜ重要なのでしょうか

国民生活や経済社会と密接に関連する税は、私たちの暮らしや社会に欠かせない多様な公共サービスを提供する国や地方公共団体の活動の財源であり、国の様々な制度の中でも根幹的なものです。

憲法で国民の義務に掲げられているように、国民が教育を受け、勤労し、税を納め、持続可能な社会を作っていくことは、民主国家の維持・発展にとって欠かせないことであり、次代を担う児童・生徒等が、国の基本である税の役割や申告納税制度の意義、納税者の権利・義務を正しく理解し、国や社会の在り方を主体的に考えることは、民主国家の維持・発展にとって極めて重要なことであると考えられます。

また、教育基本法は、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」（第1条）と定めているとともに、教育の目標について、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」（同法第2条1項3号）と定めています。社会や国を支える税の意義や役割を深く理解し、税を通して社会や国の在り方について考える租税教育は、正に教育基本法の理念に基づいた教育であると考えられます。

2 租税教育の充実に向けた取組

文部科学省、総務省、国税庁は、平成23年に租税教育推進関係省庁等協議会（いわゆる「中央租推協」）を発足させ、賛助会員である日本税理士会連合会の協力も得ながら、租税教育の推進に取り組んでいます。

全国各地においても、教育委員会など学校教育関係者、地方自治体、国税局・税務署、税に関係する民間団体の関係者の方々などから構成される租税教育推進協議会等を中心として、租税教室（出前授業）の開催や税の作文募集のみならず、例えば、職業体験施設における税務署の仕事や納税の体験、鉄道やバスに乗り税の関連施設を探す移動租税教室、教員を対象とした確定申告体験、税理士が母校で行う租税教室の開催など、様々な工夫を凝らした租税教育の取組が実施されています。

3 租税教育の事例集の活用について

平成27年4月、中央租推協では、教員等の意識啓発を図ることを目的とし、全国で行われている租税教育の優れた取組事例などを基に、監修者の先生方の御指導・御協力をいただき、事例集を作成しました。

その内容は、学習指導要領及び同解説の記述を踏まえたものとし、その構成は、①税の授業の経験が少ない方には創意工夫を生かした授業づくりに活用できる学習指導案を、②税の授業の経験が豊富な方には授業づくりのヒントとなるページ（素材やそのつかませ方を例示した教材化の視点）を、③更には発達の段階ごとの学習内容を一覧に整理した体系図を添付するなど、租税教育に関係する様々な立場の方に広く御活用いただけるつくりとしています。

租税は、社会との一つの接点であり、児童・生徒に社会と自分との関わりを具体的に理解させる観点から、社会科、公民科以外の時間にも取り扱うことが考えられます。この事例集を広く関係者の方々に周知・配布していただき、よりよい租税教育の授業づくりのため、関連する教科・時間などにおいても、是非、御活用いただきますようお願い申し上げます。

○ご利用に当たっての留意点

- ・各事例の学習内容や指導方法は、税についての学習内容や方法等を限定したものではなく、また、税に関する理論等を定めたものでもありません。児童・生徒の実態等に応じて、創意工夫を生かして御活用願います。
- ・体系図は、租税教育の学習内容等を限定するものではなく、取り上げる順番も固定するものではありません。
- ・事例集に記載している「副教材」とは、各地域の租税教育推進協議会等が、地域の情報を取り入れながら工夫して作成している補助教材を指しますが、各事例の学習内容に全て対応しているものではありません。

○監修

事例集の作成に当たり、以下の方々に御指導、御協力を賜りました。

（敬称略、50音順。学校名・職名などは平成27年3月末現在。）

- ・和歌山大学准教授 岩野 清美
- ・横浜市立丸山台小学校教諭 大久保 房代
- ・東京都立国際高等学校教諭 宮崎 三喜男
- ・大阪市立蒲生中学校校長 吉信 勝之

目次

【高等学校】

事例1 「主権者として、納税の意義を考える」 3

➢税の機能や意義を理解し、納税者としての意識を醸成することに重点を置いた授業例
(確定申告書の作成体験や税に関する仕事を紹介する指導計画を作成した例)

事例2 「公平な税制を考えてみよう」 6

➢グループワークを行い、公平な税制について主体的に学ぶことに重点を置いた授業例

紹介 「税に関する高校生の作文」への応募とリンクした3つの指導方法 8

➢作文を書く前の3つの学習パターンを紹介 (租税教室、補助教材、ワークシートの活用)

【参考】

参考1 租税教育の体系図 (発達の段階と領域、学習内容) 10

参考2 高等学校の学習内容と教材化の視点の例 11

○発達の段階ごとに多く行われている授業や取組の例

- ・高等学校では、公民科の授業以外にも、総合的な学習の時間を活用した租税教室や、キャリア教育の中で税に関する仕事を紹介するなどの取組が行われています。

○国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の紹介

検索サイトで **税の学習コーナー** を入力 ⇒

- ・学習ページ (入門編、発展編、応用編、実践編)
- ・租税教育用教材 (租税教育の事例集、ワークシート Word 版、パワーポイント教材、講師用マニュアル)
- ・ビデオライブラリー
- ・ゲーム・クイズ
- ・税の作文 (受賞者発表など)
- ・絵本・かみしばい
- ・各国税局学習コーナー

などを掲載していますので、御活用ください。



【高等学校】事例1 「主権者として、納税の意義を考える」

ポイント➤ 税の機能や意義を理解し、納税者としての意識を醸成することに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・公民科>現代社会>(2)現代社会と人間としての在り方生き方>エ現代の経済社会と経済活動の在り方>政府の役割と財政・租税


○単元の目標

- ・日本の厳しい財政状況と少子高齢社会における社会保障費の増大を背景として財政の在り方が議論されている中で、政府の役割を正しく理解し、主権者として良識ある判断ができる能力の基礎を養う。
- ・財政には、市場に委ねることが困難な財・サービスの供給、公正の観点に基づく所得の再分配、景気の安定を図る等の役割・機能があることについて理解を深めるとともに、租税を中心とした公的負担の意義と必要性について考察を深める。
- ・納税者として必要な税の手続を学ぶとともに、キャリア教育の観点から、税の仕事に携わる人の姿を通じて生徒の職業観の醸成につなげる。

○評価規準

- ・税への関心を高め、納税者としての自覚を身に付けようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・財政問題について、理解した内容をまとめ、文章で表現している。(思考・判断・表現)
- ・資料を正しく読み取り、財政の現状を理解している。(資料活用の技能)
- ・政府の役割、税の機能や意義について正しく理解している。(知識・理解)

○指導計画 (4時間・各1時間)

時	学習活動・学習内容	指導上の留意点、教材・資料(☆)
1	○主権者として、納税の意義を考える ＜本時＞	
2	○公平な税制を考える ・グループワークを通して、公平な税制を考える。 ・累進課税制度を理解する。	(事例2を参照)
3	○財政について考える ・財政制度、財政の仕組みや機能を理解する。 ・歳入と歳出、国債発行額等のグラフを見て、財政の現状と課題を把握する。 ・財政問題の解決方法を考え、意見をワークシートにまとめる。	・財政を捉える上で重要な用語や概念等についてはあらかじめ押さえておく。 ☆国税庁 HP「税の学習コーナー(発展編)」や副教材の歳入・歳出の円グラフ、国債発行額のグラフなどを参照させる。 ・一人一人が財政に関心を持ち、主体的に考え行動することが重要であることを理解させる。
4	○納税者として必要な税の手続について学ぶ ・国税庁ホームページ「税の学習コーナー」(実践編、パワーポイントの高校生用教材)やパソコン等で申告書が作成できる「確定申告書等作成コーナー」を活用し、源泉徴収票の見方などを学び、所得税の確定申告書の作成を体験する。  ○税の専門家(税務職員や税理士)の話聞く ・税に関することについて質問をしたり、税に関する仕事の実務について話を聞いたりする。	・税の専門家やICTを活用する。 ・確定申告書の作成を体験し、自立して社会生活を営むに当たり、必要な税の知識や実践力を身に付けさせる。 ・確定申告は、納税の義務を果たす手続の一つであることに気付かせ、自身と社会とのつながりを意識させる。 ・キャリア教育と関連させ、税に関する仕事を知る。

○本時の学習

1 本時の目標

- ・政府の役割、税の機能や意義を理解する。
- ・納税者として、納税の義務を果たすことの意義を理解する。

2 本時の展開 (1 / 4 時間)

	学習活動・学習内容	指導上の留意点、資料等(☆)
導入	<p>なぜ、私たちは税金を納めなくてはならないのだろうか？</p> <p>1 市場経済における政府の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳出の円グラフを見て、政府（財政支出）に対する主権者である国民の要望（ニーズ）にはどのようなものがあるのかを考える。 →社会保障（けがや病気等の医療、年金・介護など）、公共事業、教育、防衛、地方公共団体の財政調整など。 ・歳出全体の金額を○年前と比較し、全体として財政支出が増えていることを知る（財務省 HP→予算・決算等データ→統計表一覧→2. 予算及び決算の分類(1)(2)を参照）。 ・歳出のどの項目が、どのくらい増えているのかを調べ、その背景を考える。 ・政府の役割は、主権者である国民の要望（ニーズ）に応える公共財や公共サービスの提供にあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題を提示する。 ☆国税庁 HP、副教材等を参照。 ☆内閣府「国民生活に関する世論調査」の政府に対する要望が高いのは、医療・年金等の社会保障の整備、景気・高齢社会対策、雇用・労働問題への対応など（平成 29 年度）。
展開	<p>2 税の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府が役割を果たすためには、何が（どのような働きが）必要であるかを考える。→財源を集める、集めた財源を再分配する、景気の安定化を図るなどの働きが必要であることを理解する。 ・これらの機能を税が有していることを理解する。具体的には、 <ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスの財源を調達する機能 ・所得税や相続税などの累進税率で集めた財源を社会保障などに支出し、所得や資産（富）を再分配する機能 ・減税や増税を行い、景気の安定化を図る機能 ・その他、様々な政策目的を実現する機能 ・税の一番基本となる機能は、どの機能であるかを考える。 →市場経済において政府が役割を果たすためには、「財源の裏付け」が必要であり、税の基本的な機能は財源の調達にあること、税は政府の役割を果たすための財源であることを理解する。 <p>政府の財源は、誰が、どのように負担するものだろうか？</p> <p>3 公共サービスの特徴と税の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ公共サービスを市場に委ねることが難しいのかを考え、グループで議論する（例えば、以下のような公共サービスについて）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路の利用は・・・ ・警察による安心・安全は・・・ ・外交や国防は・・・ ・様々な法律は・・・ など </div> ・次に、公共サービスの対価（便益の価格）を正確に把握し、料金を徴収できるかどうかを考え、グループで議論する。 →これらが困難であることを理解する。 ・更に、公共財の性質を理解した上で、公共サービスを市場のみに委ねた場合はどうなるかを考え、グループで議論する。 →安全・安心な社会に欠かせない外交、防衛、警察、消防、司法等は、市場から全く提供されない可能性があることを理解する。 →社会資本（道路など生活や産業を支える基盤となる）、教育（次代を担う人材を育成する）、社会保障（安心できる生活を確保する）等は、必ずしも必要な量や水準が確保されないおそれがあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「再分配」は、最低限の生活確保や不平等（格差）是正を図る働きを有していることに気付かせる。 ・所得が高いと税率が高くなる累進課税の仕組みは、ビルトイン・スタビライザー機能（景気を自動的に安定化する役割）も果たしていることに気付かせる。 ☆諺「絵に描いた餅」を用いて、「財源の裏付け」がなければどうなるかを考えさせる。 ・公共サービスの中には便益が明確なものもあり、その場合の費用は、手数料等で賄われることに気付かせる。 ・公共財の性質（非競合性：同時にサービスを受けられる。非排除性：対価を支払わなくてもサービスを受けられる。）、費用負担を避けるフリー・ライダー（ただ乗り）の問題について説明する。

<p>展開</p>	<p>→公共サービスは、民間部門の働きを補完し、広く社会の構成員全体の利益にかなう役割を果たしていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論を整理し、政府の財源である税は誰が負担するものなのかを考える。 ・税の基本的な機能は、主権者である国民の要望に応える公共サービスの財源調達にあり、税は社会を成り立たせるためになくしてはならないものである。 ・公共サービスの受益と負担とは直接結びつけることができない（公共サービスに価格を付け、その対価を料金として徴収できない）。 ・公共サービスの便益は、主権者である国民（社会の構成員）が広く享受するものである。 <p>→公共サービスの財源を賄う税は、主権者である国民（社会の構成員）みんなが広く公平に分かち合うことが必要である（公共サービスの供給費用は、国や地方公共団体が公共サービスの直接の対価でない「税」という形で一括して集めている。）。</p> <p>⇒このようなことから、税は「社会共通の費用を賄う会費のようなもの」と言えることを理解する。</p> <p>4 主権者と納税の義務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法第 30 条を調べる。「(主権者である) 国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」 ・税のルール（税制）は、主権者である国民が選挙で選んだ代表者が国会で制定した法律によること（憲法第 84 条・租税法律主義）、を理解する。 ・税のルールは、「公平」など、税の基本原則の考え方によっていることを理解する。 ・国民（納税者）が、納税の義務を果たさなかったら、どうなるかを考える。 <p>→不公平が生ずるとともに、本来あるはずの「財源の裏付け」がなくなり、主権者である国民の要望がかなえられず、社会や国が成り立たなくなることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税を負担している生徒たちも他者と共に社会や国を支える一員としての役割を果たしていることを理解する。 ・税の使いみち（予算）も国民の代表者が国会で審議・議決して決めており、国民（納税者）が納めた税の使いみちが、主権者である国民の政府に対する要望に応えたものとなっているか（公的サービスの提供が効率的なものとなっているか）、税の使いみちに関心を持つことの大切さを理解する。 ・税は、国民生活や経済社会の在り方と密接に関連するものであり、税の在り方について考えることは、社会の構成員であることを自覚し、公共サービスの在り方、社会や国の在り方を考えることにつながることを理解する。 	<p>☆国民が税を納め、公共サービスを享受する矢印を用いたイラスト（副教材など）を参照させる。</p> <p>☆最高裁判決（昭和 60 年 3 月 27 日）要旨「民主主義国家では、国の維持・活動に必要な費用は、主権者である国民が、共同の費用として自ら負担すべきもの」を紹介する。（30 ページを参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスと税の対価関係が明確でないため、別の基準により税負担のルールを決めることに気付かせる。 ・国民は代表者の選出などを通じて議論に参加していく必要があることを理解させる。 ・義務を果たさなければ他者に負担がかかることを認識させ、自分たちが決めた税のルールを自分たちが守る規範意識の大切さに気付かせる（道徳性の視点）。 ・税は負担の話に目が行きがちだが、その使いみちにも関心を持つことが大切であることに気付かせる。 ・政府がどのようなサービスを提供するかは最終的に国民の意思（選択）により決定されることに気付かせる。
<p>まとめ</p>	<p>5 学習内容の振り返り、まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税の学習を通して、税の機能や意義、納税の義務を果たすことの意義を学んだことを理解する。 	

【高等学校】事例2 「公平な税制を考えてみよう」

ポイント▶ グループワークを行い、公平な税制について主体的に学ぶことに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・公民科>現代社会>(2)現代社会と人間としての在り方生き方>エ現代の経済社会と経済活動の在り方>政府の役割と財政・租税

○単元の目標

- ・財政と租税の役割や仕組みを理解し、「公平な税制とは何か」を主体的な学びを通して考える。
- ・グループワークを通して、他人の意見を聞くことの大切さを知る。

○指導計画 (3時間・各1時間)

第1時 政府の経済的役割と財政の仕組み

第2時 租税の役割と仕組み (外部講師による租税教室)

第3時 公平な税制を考えてみよう<本時>

○本時の学習 (3/3時間) ※ () 内は指導上の留意点

- 1 6つに班分けし、ワークシートのワーク1 (税の財源調達機能) を考える (この場合、生徒からは、税金、通行料、寄附、借金などのアイデアが出されるが、毎日の通行料は煩わしい、通行料を集めるには人を雇う必要がある、寄附は集まらなかつたら困る、寄附を割り当てるなら税金と変わらない、借金には利子が付いて将来税金で返さなければならない、それなら税金がいいなどの意見が予想される。)
- 2 「公平に集めたい」との条件で、各班の収入が同額の場合のワーク2を考える (この場合、1,800万円の税金を6で均等割りして各班300万円を納税する (定額) などの解答が予想される。)
- 3 次に、収入が異なる場合のワーク3を行う (ワーク2の考えを適応すれば各班300万円の納税が生ずるが、E班は税金を納めれば残りが0円に、F班に至っては税金の方が収入より高くなってしまい納めることができなくなる。そこで不足している税金をどこで補うのか、また、補う場合の根拠や基準はどこにあるのか、議論をさせ考えさせる。また、なぜそう考えたのか、理由をワークシートに書かせる。)
- 4 グループで話し合ったことについて理由を付けて発表する (一番収入の多いA班の考え方と、税金を納めることのできないF班の生徒の考え方を対比させるとよい。)
- 5 ある程度の意見が出たら、考え方を整理し、解説を聞く。

この場合、F班の足りない100万円を一番収入の多いA班が全額補填することや、100万円を、支払が可能なA班からD班で割り、25万円ずつ補填するなどの方法が考えられますね。また、全体の所得に占める税金の割合が30%であるため各班の異なる所得に30%を掛ける (定率) という考え方もありますね。「公平」の考え方だとどのやり方が適しているのでしょうか。

- 6 ワーク3を使って更に考え、所得が多いほど税率を高くする累進税率の考え方もあることに気付く。また、ワーク4を使って、累進課税制度 (税の所得再分配機能) について考える。
- 7 最後に、ワーク5を行い、再度、〇〇市の税金の集め方について考える (ワーク5は、ワーク3と収入が同じでありながら、生活をするのに最低200万円は必要であるという新たな条件が出ている。)
※現実社会と照らし合わせて説明すると更に学習が深まる (例: 年収200万円以下の社員が1,000万人以上いることや、生活保護の受給者が200万人以上いるなど。)
- 8 できるだけ公平になるよう複数の税の種類が組み合わせられていること、公平な税制を考えるには、自分だけでなく他人も幸せになれる社会、負担と受益にみんなが納得できるような公平さが求められることの説明を聞き、残りの時間で授業の感想を書く (公平のキーワードを必ず入れさせるよう工夫)。

○評価規準

- ・グループワークやクラスディスカッションに主体的に参画しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・公平な税制や「公平」について考えたことをまとめて発表できている。また、ワークシートに理解した内容をまとめ、文章で表現できている。(思考・判断・表現)
- ・自己の主張だけでなく、他者の意見に耳を傾けることができる。また、それについて意見を述べたり、自分の意見を見直したりできている。(思考・判断・表現)

(ワークシート) 「公平な税制を考えてみよう」

※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。

(ワーク1) このクラスを〇〇市と名付けます。皆さんはその市の市民です。小さな市で市民は6人。市の真ん中を市の管理する川が流れています。渡し船しかなく、学校や職場へ通うにしても大変不便でした。さて、市民全員の要望もあり、今度、市では新たに橋を架けることになりました。橋はどの市民も等しく生活に使っています。その橋を造るのには1,800万円がかかることが分かりました。さて、どのようにこのお金を集めたいのでしょうか。

(ワーク2) 全ての市民の収入は1,000万円です。なるべく公平に集めたいと思います。いくらずつ集めればよいのでしょうか。

	収入(所得)/年	メモ欄	税金	残り
A(班)	1,000万円		300万円	700万円
B(班)	1,000万円		300万円	700万円
C(班)	1,000万円		300万円	700万円
D(班)	1,000万円		300万円	700万円
E(班)	1,000万円		300万円	700万円
F(班)	1,000万円		300万円	700万円
合計	6,000万円		1,800万円	

例えの数値

(ワーク3) 市民の収入が異なる場合は、どうでしょうか。なるべく「公平に集めたい」と思います。いくらずつ集めればよいのでしょうか。各グループで話し合ってみよう。

	収入(所得)/年	メモ欄	税金	残り
A(班)	2,500万円		900万円	1,600万円
B(班)	1,500万円		450万円	1,050万円
C(班)	1,000万円	※累進税率による税額の計算例 ・500万円×20%=100万円 ・(1,000万円-500万円)×30%=150万円 ・100万円+150万円=250万円	250万円	750万円
D(班)	500万円		100万円	400万円
E(班)	300万円		60万円	240万円
F(班)	200万円		40万円	160万円
合計	6,000万円		1,800万円	

※生徒が考えた仮定の累進税率

所得金額(万円)	税率(%)
~500	20
~1,000	30
~1,500	40
1,500以上	45

なぜ、そのように考えたのか、理由を書いてみよう。

(ワーク4) 日本の所得税では、所得が多い人が多くの税金を負担する累進課税制度というやり方がとられています。これについて、どう思いますか。

(ワーク5) 同じ質問をします。なるべく公平に集めるためには、いくらずつ集めればよいのでしょうか。ただし、この〇〇市で健康で文化的に生活していくためには、最低一人当たり年200万円が必要となるとします。今度はクラス全員で話し合い、決定をしてください。

	収入(所得)/年	メモ欄	税金	残り(≥200万円)
A(班)	2,500万円			
B(班)	1,500万円			
C(班)	1,000万円			
D(班)	500万円			
E(班)	300万円			
F(班)	200万円			
合計	6,000万円		1,800万円	

今日の授業の感想を書こう

【高等学校】 紹介 「税に関する高校生の作文」への応募とリンクした3つの指導方法

ポイント➤ 作文を書く前の3つの学習パターンを紹介

【紹介1】 外部講師による租税教室と連携した指導方法

○実施学年、教科など

- ・ 公民>現代社会又は政治・経済



○単元の目標

- ・ 租税制度に関する現状と課題について関心を高める。
- ・ 学習した内容や税に対する思いについて、思考内容を自分の言葉で文章にすることを通して、これからの税の在り方を考える。

○単元の特徴

- ・ 本事例は、外部講師の協力を得た授業と「税に関する高校生の作文」をリンクさせたものである。社会に出る前の高校生を対象として、全2時間を設定し、外部講師による租税教室を行った後、授業で学んだ内容や税について日常考えていることなどを踏まえ、税に関する生徒の考えを文章の形でまとめ、「税に関する高校生の作文」として応募した。
- ・ 外部講師の講義を一方的に聞くだけではなく、学習した内容や思考内容を自分の言葉で文章にする機会を確保することで、思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実に資する取組となっていることが特徴である。

○指導計画（2時間・各1時間）

第1時 租税教室<本時>

第2時 前時で学んだ内容や日頃の税に対する思いなどを踏まえ、税に関する生徒の考えを文章の形でまとめる。出来上がったものは、「税に関する高校生の作文」として応募する。

○本時の学習（1/2時間）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入	・ 税とは何かを考える。	・ 国民生活に不可欠な公共サービスや公共施設などに必要な経費を国民が広く公平に負担していることについて理解させる。	・ 税や財政に関する現状と課題について関心が高まり、積極的に授業に参加し、前向きに学ぼうとする意欲が見られる。（関心・意欲・態度）
展開	・ 税の種類と仕組みを知る。 ・ 財政の現状を知る。 ・ 今後の課題を考える。	・ 税の種類や分類及び直接税、間接税の代表例である所得税、消費税等の基本的な仕組みを説明する。 ・ 本年度予算を基に国や県の財政の現状を説明する。 ・ 公債金残高の増加や少子高齢化など、国や県の財政の課題について触れ、これからの税の在り方を考えさせる。	
まとめ	・ 本時のまとめ	・ 本時の内容を振り返り、次時において税に関する各自の考えをまとめる際の準備をさせる。	

【紹介2】 教科書以外の補助教材を用いた指導方法

○単元の特徴

- ・ 事前指導として補助教材を用いて税の授業を実施した後、長期休業中の課題として税の作文に取り組む。

○教材・資料

- ・ 国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の租税教育用教材（高校生用教材及び講師用マニュアル）
- ・ 「税に関する高校生の作文」 募集用資料（リーフレット） など

【紹介3】 ワークシートに取り組ませた上で、税の作文を作成する指導方法

○単元の特徴

- ・学年全体で長期休業中の課題として税の作文に取り組む。

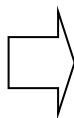
○教材・資料

- ・ワークシート ※Word 版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。

税を考えるための論点 ～「税に関する作文」を作成するために～

○年○組○番 名前

論点プリントに自分の考えや調べたことをまとめる。(夏休みの宿題の一つ)



○年○月○日 () の登校日

- ・これを基に「税に関する作文」(1,200字)を書く。
- ・論点プリントと書いた作文を提出する。

☆税の意義・役割を考えよう。

税は、私たちの生活を支える、なくてはならないもの。私たちの暮らしを支える税は、どのように使われているのでしょうか？また、税は、社会の中でどのような役割を担っているのでしょうか？

(5行程度)

☆税の使いみちを考えよう。

納税は国民の義務。予算は、国会で私たちの代表によって決められます。税を納める私たちは、当然、その使いみちに関心を持って監視していく必要があります。税の使いみちに関心を持とう！

例えば、社会保障関係費について・・・

少子高齢化社会の到来による増大・・・社会保障給付費はこの20年でおよそ倍に増えている(平成29年予算ベースで120.4兆円)。今後も高齢化の進展に伴ってさらなる増加が見込まれる。

このお金はどこから来るか？→社会保障の財源は、社会保険料収入だけでは不足するため、多額の公費が使われている。

- ・社会保障のための公費負担は、国の歳出の大きな部分を占めている(平成29年度予算：32.5兆円、歳出の33.3%)。
- ・国の歳入のうち、税収で賄われているのは6割程度で、約4割は将来世代の負担となる借金(公債金収入)に依存している。

∴社会保障関係費の支出が大きくなるのは当然のことなのでしょうか？

税の使いみちで、皆さんが一番気になるものは何ですか？教科書のグラフも参考にしながら、私たちが納める税は、どのように使われているのか考えてみましょう。また、今後、その歳出額はどのようにになると予想されますか？増える？減る？その理由は？併せて考えてみましょう。

(7行程度)

☆日本の税を取り巻く問題点とは何か。その解決策について考えてみよう。

例えば、 ・財政赤字の問題 ・少子高齢化の問題 ・社会保障費が増加する問題 ・受益と負担の在り方の問題 など

私たちが納める税を取り巻く問題は様々あります。皆さんは何が一番問題だと思いますか。また、その問題を解決する方法はあるのでしょうか。考えてみましょう。

(10行程度)

★その他(平成○年度 一般会計歳出)

(略)

左の図は、○年度の歳出です。歳出総額は○兆円に上ります。

どのくらいの金額が何に使われるのでしょうか？空欄を埋めてみましょう。

作文作成のポイント: 自分の具体的な体験や学んだことを盛り込んで書こう!

参考1: 租税教育の体系図(発達の段階と領域、学習内容)

発達の段階		小学校(社会)※中学年	小学校(社会)※高学年	中学校(公的分野)	高等学校(現代社会)	高等学校(政治・経済)
領域	キーワード	学習内容				
社会と国民生活を支える 税の意義・役割 (税の必要性)	・みんなの願い ・生活の安定と向上	健康で良好、安全な生活を守る諸活動、公共施設	私たちの暮らしと政治(国・地方公共団体)の働き	市場の働きに委ねることが難しい諸問題への国・地方公共団体の役割	政府の役割	国民経済における政府の役割
	・公共サービスの財源 ・社会の会費 ・税の使いみち	諸活動のために関係機関や地域の人々が協力していること	政治の働きの費用は税によって賄われていること	公共サービスの財源を賄う税の役割	財源調達など税の機能、税の意義と必要性	財源調達など税の機能、生活を支える税の意義・役割
		地域社会の一員としての自覚を持つこと	身近な生活と税の関わり	社会の一員(税の負担者)としての自覚を持つこと	納税者として税の使途に関心を持つこと	納税者として税の使途に関心を持つこと
	・国民主権 ・納税の義務	きまりを守ることの大切さ	憲法に納税の義務があること	憲法に定められた権利と納税の義務、納税の義務を果たすことの大切さ	納税の義務を果たすことの意義	納税の義務を果たすことの意義
税の大切なきまりや考え方	・税の公平な分担		税はみんなで分担して納めていること	税の仕組み、税の種類・分類	公共サービスの受益と負担、公平な税の考え方(個人と社会の関係、世代間の公平など)	公平な税の考え方、税の基本的な仕組み
よりよい社会と税	・持続可能な社会			財源の課題(財源の確保と配分、社会保障費)		税・財政の課題(財源の調達と配分)
社会人と税	・申告納税制度 ・税に関する仕事			自ら正しい申告・納税をすること	申告納税制度、税に関する仕事	申告納税制度、税に関する仕事
学習指導要領解説の税に関わる記述	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るために関係機関と地域の人々が互いに協力していることや、関係機関に従事している人々や地域の人々が様々な工夫や努力をしていること、それらの諸活動は地域の人々の健康で安全な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。 ・身近な地域や市で生活している人々が利用する主な公共施設(例えば、市・区役所や町・村役場をはじめ、学校、公園、公民館、図書館、児童館、体育館、美術館、博物館、郷土資料館、文化会館、消防署、警察署、裁判所、検察庁)などを取り上げ、観察、調査したり地図などを活用したりして、施設の名称と位置、働きなどを調べ、白地図に書き表す。 ・法や自分たちが決めたまかりを守ることが地域の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を図る上で大切であることに気付くようにする必要がある。 ・政治の働きと税金の使われ方の関係を取り上げ、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。 ・国民は権利を行使する一方で、勤労や納税の義務などを果たす必要があることなどを理解できるようにする。 ・国民の義務は、納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする。 ・国や地方公共団体に任せ方が効率的であったり、公正であったり、市場の働きだけに任せたままでは解決が難しい財やサービスを提供する役割があることを、統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴に触れ、財政を支える租税の意義と税制度の在り方について考えさせる。 ・統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴に触れ、財政を支える租税の意義と税制度の在り方について考えさせる。 ・国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解させるとともに、税の負担者として租税の使いみちなどについて理解と関心を深めさせるなど納税者としての自覚を養う。 ・財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げ、財政支出に対する要望は広範多岐にわたり、そのための財源の確保が必要であるが、財源は無限にあるわけではないことに気付かせ、財源の配分について、効率や公正の考え方に基づいて考えさせる。 ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか、税の負担者として自分の将来とかわらせて考えさせる。 ・市場経済の中での政府の役割は、国民生活の向上と福祉の充実のために、民間部門では十分には供給することの難しい財やサービスを提供する役割があること、また、所得再分配や経済の安定化を図る役割があることを、近年の経済の動向を踏まえて考察させるとともに、租税を中心とした公的負担の意義と必要性についての理解を深めさせる。 ・その際、納税が国民の義務であることを理解させるとともに、税金がどのように使われどのようなサービスを受けているかなどについて納税者としての立場から関心をもつことが大切であることを理解させる。 ・持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会に対する課題について個人と社会の関係、現役世代と将来世代の関係などに着目させながら探究し、現代社会に対する理解を深めさせる。 ・現代の政府は、家計や企業の経済活動にゆだねることの困難な部門を引き受けていること、資源の配分、景気変動の調整、所得や資産分配の不平等を是正するなどの役割を果たしていることを理解させる。 ・財政(政府による経済)活動を行うには原資が必要であることに気付かせ、租税や国債など財源の調達方法やそれぞれの問題点を理解させるとともに、限られた財源をいかに配分すれば国民福祉が向上するかを考察させ、適切な財政運営が重要な課題であることに気付かせる。 ・税制度の基本を理解させるとともに、国民生活における租税の意義と役割、公平で適切な負担の在り方について考察させる。 ・その際、国民が納税の義務を果たすとともに、納税者としてその使途について関心をもつことが大切であることを理解させる。 					

○参考2: 高等学校の学習内容と教材化の視点の例

学習内容 (体系図の 学習内容と 一致)	学習活動			対応 事例 ()は 関連
	素材	つかませ方	教材・資料	
(国民経済における) 政府の役割	・歳出の内訳	・歳出の内訳を調べ、国民の政府の財政支出に対する要望には、どのようなものがあるかを理解する。	・歳出の円グラフ	・高-1
	・歳出額の比較	・歳出全体の金額を過去と比較し、全体として財政支出が増えていることを理解させる。また、どの歳出項目が増えているのかを調べ、その背景を考えさせる。	・財務省 HP	・高-1
	・憲法の前文	・公共サービスの便益享受について、憲法前文に「(国政の)福利は国民がこれを享受する」とあることに気付かせる。		
	・ネットの論争	・自宅の蜂の巣駆除を巡るネット上の論争を調べ、政府の役割や公共サービスの範囲、公共サービスの受益と税負担について考えさせる。	・ネット、 新聞記事	
	・国や地方公共団体の仕事	・各省庁や地方自治体の HP を調べ、国や地方自治体の仕事や役割を理解させる。	・省庁や自治体 HP	
財源調達 など税の 機能	・諺「絵に描いた餅」	・諺を紹介し、意味を教える。財源の裏付けがない歳出は、この諺の意味と同じであることに気付かせる。		・高-1
	・寄附	・個人の意思等に左右され、財源としては不安定な寄附と税を比べ、税が有する財源調達機能を理解させる。		・高-2
	・生存権、格差	・生存権や格差から、所得再分配機能の意義を理解させる。		・高-1
	・気球	・税を乗せた気球が、景気の良いときには税負担増加により下降し、悪いときには税負担減少により上昇する絵を用いて、税の景気を自動的に安定化する機能を理解させる。	・副教材の イラスト	
	・米国のソーダ税など	・日本の地球温暖化対策のための税や外国のいわゆるソーダ税(医療費抑制等)などを紹介し、税には政策目的を実現するための機能があることを理解させる。	・環境省 HP、 ネット	
	・贈与税の非課税	・若年世代への資産移転等を図るため、子や孫に対する教育資金の贈与税の非課税措置が設けられていることを紹介し、税の政策目的実現のための機能を理解させる。	・文部科学 省 HP、新 聞記事	
税の意義 と必要性 (生活を支 える税の意 義・役割)	・歴史上の人物の言葉	・米国歳入庁の建物入口に刻まれているオリバー・ウェンデル・ホームズの言葉「租税は文明社会の対価」を紹介し、税の意義を考えさせる(「税の学習コーナー(応用編)」)。	・国税庁 HP	
	・選挙の争点	・「税の学習コーナー(応用編)」の税のエピソード・日本編「福澤諭吉と税」(「学問のすすめ」の中で、税は政府と国民との約束であると述べていること)を紹介し、税への関心を高める。 ・選挙の争点は、税に関わるものや税を必要とするものが多いことに気付かせ、政治の働きの費用を賄う税の意義や役割、必要性を理解させる。	・国税庁 HP ・新聞記事	

<p>納税者として税の用途に関心を持つこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税 ・税金の使いみち ・教育費 ・米国独立戦争 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税は、自分が応援したい自治体に寄附をする制度であり、原則として寄附をした額のほぼ全額が所得税と住民税から軽減されるため、結果として寄附をした自治体に税金を納めたことと同じような効果が生まれる仕組みであることを知り、税の使いみちに対する関心を高める。 ・みんなが納めた税金の使いみちを知ることを通して税金がどのように役立っているのかを理解させる。また、税の使いみちは選挙で選ばれた国民の代表者が国会で決めており、国民一人一人が政治や選挙、税の使いみちなどに関心を持つことの大切さを理解させる。 ・公立学校に通う生徒一人当たりの月（年）間教育費の金額の多さに気付かせ、税が役立っていることを理解させる。 ・「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・アメリカ編「アメリカ人の税に対する思い」（税をきっかけとしてアメリカ独立戦争が起こったため、アメリカ人は税の使いみちなどに強い関心を持っている）を紹介し、納税者としての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省 HP、各自治体 HP ・歳出の円グラフ ・副教材 ・国税庁 HP 	
<p>納税の義務を果たすことの意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最高裁判決（昭和 60 年 3 月 27 日・いわゆるサラリーマン税金訴訟判決） ・アル・カポネ ・税のない国 	<ul style="list-style-type: none"> ・最高裁の判決要旨を紹介し、税の意義や納税の義務に対する理解を深めさせる（「およそ民主主義国家にあっては、国家の維持及び活動に必要な経費は、主権者たる国民が共同の費用として代表者を通じて定めるところにより自ら負担すべきものであり、我が国の憲法も、かかる見地の下に、国民がその総意を反映する租税立法に基づいて納税の義務を負うことを定め（30 条）、新たに租税を課し又は現行の租税を変更するには、法律又は法律の定める条件によること必要としている（84 条）」）。 ・米国のギャングのアル・カポネが、最後は脱税により有罪判決を受け、刑務所に入れられた例を挙げ、税のルールを守ることの大切さを理解させる。 ・資源が豊富で税がなかったが、その資源が枯渇したことにより経済が破綻状態となった国（ナウル共和国）を例に取り上げ、日本の憲法の三大義務がなかったら（納税の義務が果たされなかったら）、どのような社会になってしまうのか、社会や国の在り方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット ・ネット ・ネット 	<ul style="list-style-type: none"> ・高-1
<p>公共サービスの受益と負担（個人と社会の関係、世代間の公平など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットの論争（再掲） ・会社員の納税額と教育費 	<ul style="list-style-type: none"> ・（11 ページの「(国民経済における) 政府の役割」欄を参照) ・給与収入 700 万円の会社員の所得税と個人住民税等の税負担額（約 30 万円・平成 30 年分以降の課税ベース）と、公立学校に通う高校生（全日制）一人当たりの年間教育費の国・地方公共団体の負担額（約 106 万円・平成 27 年度）とを比べ、受益と負担について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット、新聞記事 ・財務省 HP、国税庁 HP 	
<p>公平な税の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・税率の仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・所得税や相続税などの累進税率や、消費税・個人住民税などの比例税率（税率は一定だが、課税対象額が多くなれば税額が多くなる。平成 29 年 4 月現在）の仕組みを通して、垂直的・水平的な公平の考え方があることを理解させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高-2

	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバー制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民一人一人が番号を持つマイナンバー制度の趣旨（利便性の高い公平・公正な社会の実現）などを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁 HP 	
税の基本的な仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・税の国際比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の税率などを比較した表を調べ、国によって税の仕組みや税率が異なることに気付かせる（各国の税制は、その国の歴史や文化、経済や社会の仕組み等を反映して構築）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務省 HP、国税庁 HP 	
税・財政の課題（財源の調達と配分）	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税の使いみち ・税収の推移 ・租税回避 ・借金時計 ・家計への例え 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に身近な消費税の使いみち（社会保障財源化）を調べることを通して、社会保障と税の一体改革の背景や趣旨、内容などを理解させる。 ・主要な税目の税収の推移及びその背景を調べ、税制が経済社会と密接に関連していることを理解させる。 ・タックス・ヘイブンや多国籍企業への課税問題などに関する新聞記事を調べ、国際的な課税逃れ（租税回避）が問題となっていることに気付かせ、その背景（経済活動の国際化や各国の税制の違いなど）やその影響（租税回避による税収不足など）、対応策（租税条約に基づく情報交換の実施など）の現状などについて理解させる。 ・プロジェクター等で借金時計を見ることにより、財政赤字の現状を実感させ、財政に対する関心を高める。 ・日本の財政を家計に例え、毎年赤字であることや借金の多さに気付かせ、財政の現状と問題を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務省 HP、国税庁 HP ・財務省 HP ・新聞記事、ネット、財務省 HP ・ネット ・財務省 HP 	
申告納税制度、税に関する仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイト代の確定申告 ・職業選択の自由（憲法第22条） ・諺「年貢の納め時」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「税の学習コーナー」（実践編又は高校生用教材の申告書作成編）等やパソコン等で申告書が作成できる「確定申告書等作成コーナー」を活用し、源泉徴収票の見方などを学び、所得税の確定申告書の作成を体験させる。 ・「何人も、公共の福祉に反しない限り、（居住、移転及び）職業選択の自由を有する」→多様な職業がある→プロ野球選手、プロゴルファー、モデル、医者、弁護士、小売業など事業を営む者は、自分で所得や税額を計算し、確定申告を行うことを理解させる。 ・諺を紹介し、意味を教える（隠れて耕作していた田が見つかり、ごまかしていた年貢を納めなければならなくなったときなどを意味していたが（今でいう「脱税」）、悪事が見つかり刑に服さなければならないときなどに使われるようになった。）。 →諺から、昔、税金は年貢であったことに気付かせる。 →諺から、税金は「取られる」ではなく、「納める」という言い方をすることを理解させる。 →現在、所得税など国税では、自ら正しい申告と納税を行う申告納税制度が採られていることを理解させ、それを支える税に関する仕事や税務行政の取組を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁 HP 	(高-1)